

令和 5 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームじゅあんの園 あじさい棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500204		
法人名	社会福祉法人奥州市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームじゅあんの園 あじさい棟		
所在地	〒023-0401 岩手県奥州市胆沢南都田字石行30-1		
自己評価作成日	令和5年10月27日	評価結果市町村受理日	令和6年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るくゆったりとした施設の中で、じゅあんの園理念「一日十笑」のとおり、利用者様と職員が笑顔の日々を送れるような施設を目指しています。利用者様希望の外食やドライブを企画し、夏まつりや敬老会などの季節行事、じゅあん喫茶などのイベントには、近隣住民やボランティア団体、ご家族、運営推進委員に参加いただき、一緒に楽しい時間を共有する機会を設けています。また、消防訓練でも地域の皆さんに協力を頂いており、災害時の対応でも心強く過ごすことが出来ています。他施設行事等にも積極的に出かけ、地域と交流しながら楽しく過ごせるよう支援しています。今年はコロナ禍の中、行事内容にも創意工夫し利用者様と一緒に取り組んでいます。利用者様・ご家族から安心して生活できて良かったと思っただけのよう、訪問診療や訪問歯科の利用など医療との連携も図っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者複合施設の一角に設置されており、デイサービス事業所が併設されている。周辺には市役所総合支所や協力病院、図書館などがあり、スーパーやパン屋など買い物もでき、恵まれた立地環境となっている。公募による職員提案の「一日十笑」の理念は利用者・家族・職員にとってもわかりやすく浸透している。更に理念を実現するための目標「寄り添ったケアの提供を」も決めて取り組んでおり、実践に繋がっている。毎月、利用者の笑顔の写真を添えた家族へお知らせも好評で、医療機関が近いこと、訪問診療、訪問歯科診療を利用出来ることなども大きな強みとなっている。職員体制に余裕があるわけではないが、終末期への対応や災害時の対応などの課題にも前向きに検討する姿勢がある。新型コロナウイルスが5類に移行したものの、感染防止に細心の注意を払いながら、利用者の希望に応えたドライブや回転寿司での外食などの工夫と努力も評価したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名：グループホームじゅあんの園 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	奥州市社協介護サービス事業の基本理念・じゅあんの園独自の理念「一日十笑」に沿って、日々の業務に取り組んでいる。	「一日十笑」の基本理念は、玄関やホール、事務室等に大きな文字で掲示され、笑顔で楽しく過ごせる支援の基軸として浸透し、職員の自信にもつながり、介護計画に対して「笑って楽しく過ごしてほしい」とのご家族意向もある。理念は広報紙やパンフレットにも明記され、周知の工夫も伺える。あじさい棟では「利用者に寄り添ったケアの提供」という具体的な実践目標を設定し、利用者支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に広報誌を配布し活動内容など紹介している。近隣の授産施設に資源ごみを運搬する等、地域の一員として交流を深めている。5類になったがコロナのため、地域との交流が難しい状況にあります。	年3回地元の振興会や介護事業所に配布している広報紙「Hey!じゅあん」は、多彩な諸活動がカラー印刷された内容となっている。月1回の段ボール出しには、各棟より2名の利用者と職員が一緒に参加し、また授産施設運営の「パン屋」には定期的買い物にも出かけている。アニマルセラピー・傾聴・唄・化粧・踊りなどの多彩なボランティアの受入れ、夏祭りやじゅあん喫茶の開催などは今年度も見合わせているが、近隣農家からの野菜差入れや、夏場近隣の方々(約10名)による周辺の草刈りが実施され、とても感謝している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学の受入や、職員が認知症キャラバンメイトのボランティア参加するなど交流を図っている。近隣の方にも自由にきていただき、相談できる環境となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナでの感染予防対策や施設運営や地域交流、広報誌作成等について意見をいただき、その後職員会議等に提案しサービスに反映できるように努めている。	昨年度までは書面会議が続いていたが、今年度は隣接の支所会議室で開催している。会議委員には、利用者及び家族、知識経験者、行政区長、児童民生委員、行政、ボランティアの他に協力医療機関や消防施設の職員も委員に委嘱し、助言や意見交換が活発に行われている。また、消防施設職員から専門的助言を気軽に得られる関係にあり、議題によってはオブザーバー参加の依頼も可能な関係者が揃っている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームじゅあんの園 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として行政の方にも協力を得ており、会議等でも助言をいただいている。運営、制度上不明点、事故報告等については、その都度、電話やその都度出向き、安全なサービス提供にむけて、助言をもらっている。	胆沢総合支所の健康福祉グループ長に運営推進会議の委員を委嘱している。今年度、入居後の利用者による生活保護申請が続いたり、転倒骨折の事故報告時には市役所(本庁)担当窓口に出向き助言や相談をすることで、顔の見える関係が出来ている。また、介護相談員2名の受入れ、地域包括支援センターとのやりとりを経て1名の入居希望者を受入れた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、内部研修を行い職員全体の意識付けに努めている。身体拘束の手引きを掲示している。防犯予防として、夜間19:00～早朝7:00までは玄関の施錠を行っている。	ここ数年のコロナ禍により、感染症対策に傾倒した期間が続いた反省から、今年度は「身体拘束の適正化」を重点的に取り組み、職員アンケートを実施し結果を研修資料(スピーチロック対策など)に活用する予定である。また、あじさい棟では「眠りスキャン」4台を導入し、夜間の事故防止と職員の不要な見回り業務軽減につながっている。離床センサーや緩衝クッションも必要者には使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の場面を振り返り、報告・相談、助言できる環境を常に意識している。話しかけについても日々職員間で意識を持ちながら支援している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年までは利用されていた方が在籍していたが、現在利用されている方はいらしゃらない。今後利用される方がいた際にはスムーズに連携が取れる様、日常生活自立支援事業や成年後見制度等について、研修会を開催し職員の資質向上に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者、家族に説明を行い同意を得ている。不明な点についてはその都度説明を行っている。解約時も同様である。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームじゅあんの園 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りや家族来所時に生活の様子や健康状態についてお伝えしている。その際、要望や意見等をうかがい、職員で共有し迅速な対応をするよう申し送りノートなどに記載し改善に努めている。第三者委員を設置し、相談できる窓口を設けている。	居室担当が写真付きで毎月のお便りを作成し、手紙係がまとめて家族に発送している。笑顔が伝えられており、ご家族からも好評である。担当者の変更もお知らせしており、ご家族との信頼関係も構築されている。「申し送りノート」は毎日ファイリングされ、職員は確認の上業務を開始することが習慣化されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時又は・職員会議・棟会議等で職員の意見を聞く機会を設けたり、個別で話し合いの場を設け、意見や提案を言いやすい環境を作っている。	両棟合同での職員会議と各棟毎の棟会議(評価会議含み)を毎月開催している。夜勤などで管理者不在の場合にあっても、主任を通じ相談や工夫を含めた利用者支援の対応は日常的に行われている。昨年度、ゆきつばき棟で機械浴対応とした他、あじさい棟での介護ロボット「眠りスキャン」の導入など、職員意見が業務に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革や同一労働同一賃金等を考慮し、時間外の短縮や業務内容の見直しなど検討し働きやすい環境に努めている。正職員への登用制度を確立している。資格取得時、職専免や年次を利用して研修に参加できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修会への参加や資質向上にむけての講習会への参加も行いキャリアアップできる環境整備ができています。コロナにより研修が中止・延期になることも多かった、施設内研修を計画し資質向上に務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会へ加入し、リモート研修会等に参加し、他事業所、他職種と情報交換も行って介護サービスの質の向上へつなげるきっかけ作りができた。また、他グループホーム管理者と常に交流もあり、お互い情報交換を行っている。		

事業所名 : グループホームじゅあんの園 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から利用者本人やご家族、環境についてアセスメントを可能な限り詳しく行い、入所してからの混乱が最小限になるよう本人・家族と連携している。また、担当制にすることにより、職員との信頼関係をよりスムーズに築けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な点は、すぐに確認ができるように連絡先を明示している。全職員が対応できるように、フェイスシート等で情報の共有を図って信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所1ヶ月は本人のニーズ把握のためのプランに基づきサービス提供を行い、細やかな観察を行って家族との連絡も緊密に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事はそれぞれができる事を分担して行っている。掃除、衣類たたみ、食器洗いなどを職員とともにし、お互いに話をしやすい関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の要望を聞きながら、気軽に意見を話せる雰囲気を作り、担当職員を決めることで、より話しやすい関係を作っている。遠方のご家族と、電話で会話ができる等本人と家族の絆も大切にしている。、家族も本人も安心してホームで過ごす事が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面談室や新聞コーナー、居室での面会であったが、現在は5類になっているが、玄関先での面会となっている。外出希望もありドライブなどでこたえている。	今年度になってもお盆の墓参りは日帰りとし、感染防止のための制約を余儀なくしている。ご家族の定期的な面会のほか、年末年始やお盆には帰省中のお孫さんが面会に来所されることが多いが、家族以外の馴染みの方が面会に訪れることはなく、月1回の床屋が新たな馴染みになっている。馴染みの場所にはドライブで希望に応えている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームじゅあんの園 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を決めているが、レク・活動時等は自由に席を選び参加している。また、ソファを設置することにより、利用者が自然に会話できるようになっている。交流が苦手な利用者に対しては職員が間に入り会話や交流の機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もそれぞれのケースに応じて、家族の心配事や適切なサービスが受けられるようにアドバイスを行っている。必要に応じて気軽に連絡がとれる事を退所時に伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、入浴、食事、余暇活動等に対する希望や要望を確認をしている。入浴日以外の入浴希望があった際には対応している。要望について、職員全員で検討し改善に努めている。	帰宅願望の利用者(自宅の葡萄の木が気になる)には、自宅までドライブをしたり、手続き記憶が保たれている利用者には、趣味活動での縫い物、編み物をしていただいている。ゆきつばき棟では、重度の認知症にあり興奮状態となった際には、時間をおき落ち着いてから声がけする等の対応をしている。利用者は、マンツーマンでの介護時に思いを話されることが多く、申し送りノートに記載し情報共有するとともに、介護計画作成にも活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を職員が把握することにより、趣味や馴染みのものと生活ができるように努めている。本人・ご家族からの要望等、毎月の評価会議において話し合い、利用者の状態の把握に努め情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過や業務日誌、申し送りノートに利用者の心身状況や様子、会話などを記入し情報共有を図る事により現状を把握する事ができている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームじゅあんの園 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の評価会議において、担当職員のモニタリングを含め各職員からケアの見直しやあり方について意見交換を行っている。本人や家族から出された要望や意見についてもプランに反映していくことでニーズの充足に努めている。	介護支援専門員が新規採用ということもあり、初回は管理者と主任級職員の2名で訪問調査し、暫定の計画を立てている。初回の(暫定)計画期間は概ね1~2か月とし、その後状態が落ち着いていけば、半年毎に見直している。計画見直しの際のモニタリングは、居室担当職員が行い、各棟毎の評価会議で検討している。ご家族の意向確認は、通院介助や面会などの時間を利用して行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫は、支援経過の特記事項の活用、また、業務日誌で申し送る事により情報共有を図る事が出来ている。評価会議等で利用者の現状を話し合い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の会話や行動からニーズを推し量りながら個々の生活に活かすように心掛けている。季節行事や近隣施設で開催される様々な行事や発表会等に参加し、地域の旬な活動を体験することを大切に活動しているが、感染症対策として大人数の行事には参加しづらい状況であった。近隣施設のお祭りの花火、神輿行事は室内から楽しむ事は出来た。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣農家やご家族から野菜をいただき調理したり、野菜づくり・収穫などをして季節や旬の作物を感じる事が出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療や訪問歯科診療を受ける利用者があり医師・看護師と情報や相談を行い連携を図っている。、家族からも安心の声が聞かれている。かかりつけ医の受診は家族対応としているが、感染症等で遠方から帰省できないかたについては職員や家族希望により保険外ヘルパーで対応している。	車で数分の場所に協力病院があり、訪問診療や訪問歯科診療も行われている。以前からのかかりつけ医への通院は家族の同行をお願いしている。両棟ともに介護度3の利用者1名が月1回の訪問診療を受けている。また歯肉炎等の治療時には訪問歯科診療も利用している。保険外訪問介護利用は、入居前に利用していた馴染みのホームヘルパーが対応している。	

事業所名 : グループホームじゅあんの園 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子や状態変化について、常に看護職に報告し、専門的分野からアドバイスをいただき家族と連携しながら適切な介護、受診に繋げる事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心した治療のため、医師や看護師に利用者の体調や薬剤の情報提供を行っている。入院中の状況を家族や病院関係者と情報交換している。家族や退院時はカンファレンス等により状態や注意点を確認し、退院後快適かつ安全に生活ができるように職員に周知・対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になってきた場合、細目にご家族に情報提供すると共にサービス担当者会議を開催し現在の状況、支援内容、今後について相談を行い情報共有している。特養入所も難しい中、終末期ケアの必要性はあると実感しており、現在検討している。職員のスキルアップに努め研修開催も考えている。	看取りの実績は無いものの、次の施設などへの移行までの期間、重度者への対応をした経験があり、主治医の指示による訪問看護も利用しながらの支援実績もある。利用者の高齢化に伴い、重度化は避けられず、職員の認識にも温度差がある中で、職員に対するスキルアップの研修、支援方針の共有化などが課題となっている。	終末期対応については以前からの課題であり、事業所としての方針を明確にしつつ、理念を基軸とした利用者支援の話し合いを重ねながら共有化を目指し、恵まれた医療環境下、支援体制が前進することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営推進委員である消防機関の協力を得て、救命講習会を予定し、利用者の急変や事故発生時の対応、AEDの使用について全職員が緊急時慌てず行動できるよう資質向上に努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近年は、コロナにより地域の協力得ず、施設内での消防訓練・運営推進委員でもある消防所長・点検業者から意見をいただいている。	異動職員や経験年数の少ない職員を優先した訓練を企画している。コロナ禍によりここ数年「地域協力員」の参加は無く、事業所主体の訓練となっている。「備品管理表」を作成し、担当者が定期的に確認しており、昨年実施した炊き出し訓練では、隣接施設(胆沢支所)内にある大鍋など備品確認も出来ている。季節に応じた必要物品の確保や段差解消用板(修繕)の必要性も認識している。	万が一の場合、地域協力員が重要な存在であることから、協力者を再確認の上、名簿などを備え、協力体制の再構築を図ることを期待します。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	温かい気持ちで敬意をもって接するように心がけているが、時々、強い言葉がけを聞くこともあり、お互い注意できる環境づくりに努めている。家庭的な雰囲気のするユーモアあふれる会話も日常的に大切に利用者様が笑顔で過ごせるよう支援している。	あじさい棟では、利用者間の声がけや助け合いが醸成され、職員は、入り込む余地が無い程の関係性を尊重しつつ、必要な部分だけの支援に努めている。呼名は下の名前に「さん」付けとしているが、難聴のため「ちゃん」付けとしている利用者もある。方言を上手に利用することもある。女性入居者が多く、入浴介助では、異性介助に配慮し職員が交代する対応や居室入室時のノックなどが実践されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者が自由に意見を言えるような雰囲気づくりを心掛けている。自己決定できるような個々の好みの活動を重視して生活できるような雰囲気作りをしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・自由時間の過ごし方等、利用者ひとり一人のペースに合わせ、安全に留意しながら生活できるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や着替え等、自分で選ぶことを基本とし、自己決定を支援している。本人・家族から理髪への依頼があった際には近所の理髪店に出張して頂いている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で好きな食べ物や食べたいものを聞きながらメニューに取り入れている。施設の畑で野菜を育て一緒に収穫し獲れた野菜を調理し季節野菜を味わったり、郷土料理と一緒に昔話をしながら調理していただく事もある。	食事は、3食手作りで提供され、毎月の献立を各棟毎の給食係が作成し、法人内の栄養士が確認している。水分摂取量を確保するため、工夫した献立で汁物を毎食準備している。すいとん等の郷土食の他、敷地内で収穫できるフキやシソの葉を利用し、皮むき等の下準備やみそ巻の下拵え等に腕を振るう利用者も多い。誕生日には、スポンジにデコレーションした手作りケーキでお祝いし、海鮮丼のテイクアウトも時々利用している。コロナ禍で外食は控えていたが、利用者の希望もあり、先月には、感染症沈静のタイミングをみて、久しぶりに回転寿司での外食を楽しんだ。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みやアレルギーに配慮し、個別にメニュー変更をすることもある。疾患・体調等に合わせた水分摂取を心掛けている。支援経過や排泄チェック表を記載し利用者一人ひとりの食事量や水分量を全職員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者毎の状態にあわせて声掛け見守り、介助にてブラッシング、うがいをやっている。夜間は必要者に合わせて義歯を預かり洗浄し、清潔が保たれている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用や歩行困難な利用者も、残存機能を活かし、自立した排泄が保てるように声掛け・誘導・介助しトイレでの排泄支援を行っている。支援経過にて1日の排泄パターン・状況を記録し全職員で情報共有できている。	昼夜ともに出来るだけトイレでの排泄支援を心がけている。入居後、排泄状態の改善までは至らなくても、状態を維持し失敗を少なくする支援をしている。夜間のポータブルトイレ使用者は無く、殆どの利用者が入居前からの状態を維持している。ゆきつばき棟で尿意の分からない車椅子使用の利用者には、定時毎に誘導の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師、担当医と相談し服薬調整等を行っている。また、便通が良くなるように繊維野菜や果物・水分摂取できるようにメニューを考案している。また、身体を適度に動かすことも定期的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴でゆっくり入っていただき、入浴を楽しみにされている。曜日は決めているものの、利用者が入浴を希望された時や体調不良時、外出や行事等に対して臨機応変に対応している。	入浴は午後に各棟で提供している。寒くなってきており、両棟とも、頻回利用よりは拒否の利用者が増加傾向にあるが、無理強いはないで、体重測定や着替えなどの声かけで上手に脱衣所まで誘導し、気分良く入浴している。一人一人の希望する湯温があり、ぬるい湯温希望の方から始め、後半に熱い湯温希望の方としている。ゆきつばき棟で機械浴の入浴者が1名ある。必要にはあじさい棟の利用者も利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にはベッドの準備はしてあるが、希望や身体状況に合わせ、布団やエアマット等好みの寝具を使用し安心して休息が取れるようにしている。又、共有スペースでも疲れたらすぐ休めるようソファを設置している。		

事業所名 : グループホームじゅあんの園 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方箋を綴りにして常に目的や副作用を確認できるよう整備している。誤薬事故防止のため3重のチェックを行っている。個々の内服状態を把握し確実に内服することが出来るよう看護職と相談しながら提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ以前は、両棟の交流とともに、利用者が選べる趣味活動(調理・歌・手指活動等)を開催していた。現在は規模を縮小させユニット内の活動が主になっているが、興味のある活動を継続することで、生きがいつくりにつなげていきたい。家で行っていた家事・洗濯干し・たたみ等自然にできる環境づくりを行っている。また、両棟の交流として施設内の散歩をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策を行いながら、お花見等季節に沿ってドライブに行き、利用者希望のお弁当を食べ気分転換を図った。天気の良い日は、散歩に出かけ散歩する等外出の機会を設けている。家族の協力も得て、家族と一緒に外出される事は本人の要望で自由に行うことができるようになってきているが、感染症対策として人混みになってしまう場所は避けてもらいながら、少しずつではあるが家族との外出の機会を設けてもらっている。	花好きの女性利用者が多く、要望に応え、金ヶ崎の花きセンターや一関の骨寺産直などに出かけた。日常の散歩には、外出したい利用者だけでなく、出不精の利用者を意識し外出を促している。春先から秋口は両棟の間にある畑に出たり、散歩や日向ぼっこをしていたが、昨今近隣に熊が出るとの情報があり、控えざるを得なくなっている。コロナ禍前には、週1回の買物時、職員と一緒に買い物外出の機会もあったが、現在も休止している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	4人ほど現金を所持している利用者があり、本人が大切に保管している。必要な物品購入はご家族が用意したり、一緒に外出した際に購入していただいている。近所のパン屋さんに職員と一緒に行き、好きなパンを購入し支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ感染対策の為、なかなか家族と面会できない利用者もおり、施設の電話を利用し家族と話をする機会を設けている。家族宛に暑中見舞いのハガキを書き郵送し家族との繋がりを大事にしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームじゅあんの園 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にエアコン設置することで温度調整ができ、個人の落ち着ける空間を楽しむことが出来ている。利用者と一緒に春夏秋冬を感じる事ができるような装飾制作を心掛けている。廊下や居室には利用者が作成した作品や行事の写真を貼ることにより、思い出の提供にもなっている。	総合支所に近い中心地域にあっても騒音は無く、日当りは良好で、両棟の間には畑があり、ホールからは相互の姿が確認できる造りとなっている。玄関からホールなどの共用空間にはテーブルやいす、多くのソファが置かれ、それぞれが好きなおところで寛いでいる。エアコンや空気清浄機、加湿器などで温度等も管理され、明るく快適な環境を作り出している。壁面には季節ごとの飾り付けがあり、清潔感のある心地よい空間となっている。夜間、多くの利用者が居室に戻った後、ホールで一人の時間を楽しむ男性利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用のテーブルは座席は決まっているが、話の内容やその時のメンバーが話しやすい場所に座って楽しんでいる。他にもソファや小ホールなどで自由な時間を過ごされている。また椅子を移動して日向ぼっこするなどその時々楽しみをもって過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人馴染みのものを飾ったり、本人愛用の寝具を使用、馴染みの家具等持ち込んでいただいている。また、大切な方のご位牌やお写真をお持ちになるなど、家庭と変わらない雰囲気生活できるようにしている。	各居室には、エアコン、ベッド、洗面台が備付けられている。自宅で使用していた馴染みの椅子や使い慣れた上掛け布団(重さのある)等を持ち込んでいる。あじさい棟では、手作り作品を居室に飾りたい利用者が多く、にぎやかに作品が飾られた居室が多い。ゆきつばき棟では、異食や破損等の行為をする利用者もあり、最低限の必要物品だけのシンプルな部屋もあるとしている。テレビの持込み者も多く、あじさい棟6名、ゆきつばき棟5名であり、夜間は自由に視聴している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入所された方に、居室やトイレが分かりやすいように、入口に名前を掲示している。確認しながら自分の居室に戻られたり、トイレに行けるなど安心して生活できるよう心掛けている。		